



片桐勝彦の  
バイレ  
フラメンコ  
Acompañamiento del baile

著者プロフィール：日本を代表するフラメンコギタリスト。幼少の頃よりヴァイオリンを始め、その後ギターを独習。A-JARIやチリクマルカ等のグループ活動を経て、明治大学在学中にフラメンコギターを始める。98年から長期渡西。マドリードのタブラオ「カサ・パタス」やセビージャのラジオ番組などに出演。帰国後はカニサレスとの共演やNHK「音楽のある街で」出演。主な参加CD・DVD：風回廊（渡辺えり）、天国を見た男（沢田研二）、Boy（coba）他。Estudio ROMERO主宰。

VOL.9

BULERÍAS ①

～はじめに～ ソレアやアレグリアスなどの3拍子系の曲のシメに、必ずといっていいほど姿を現すブレリア。舞台やライブの出し物がすべて終わった後（フィン・デ・フィエスタ）でやることの多いブレリア。人が集えば自然発生的にはじまるブレリア。このまさにフラメンコといえる人気の高いブレリアを、如何に表現し楽しむかを考えていきましょう。

## ブレリアとは

まず即興性の強いブレリアを、踊り（舞踊・振付）と考えてはいけません。つまりブレリアは舞踊や音楽と考えるのではなく、フラメンコのエッセンスが詰まった呼吸のように考えると理解しやすくなります。ブレリアの本場ヘレスでは、日常に話をする速度がそのままブレリアの唄になると言われています。アンダルシアでは日々の生活の中にブレリアがあるので、ブレリアを唄ったり踊ったりすることは、特別なことではなく自然なことなのです。来日したスペイン人たちと行動を共にすると道端でも電車の中でもすぐにフラメンコがはじまりますが、そのほとんどがブレリアです。ブレリアの調性はミの旋法やメジャーキー（長調）の他に、マイナーキー（短調）のクプレ（スペインの歌謡曲）をブレリアのコンパスで表現したものなど多様なスタイルがあります。セビージャで友人の結婚式に出た際、この祝祭色の強い喜びと宴のブレリアが生でにぎやかに演じられました。その鮮烈な記憶は何年経っても薄れません。

## ブレリアの即興性

ブレリアはジャズのように共通のコード進行やテーマとなるメロディーの中でゼロから音を即興的に作るのではなく、「自分たちの持っているフレーズや唄や振りを即興的に出し合う」ものです。即興が成り立つのは、共通のコンパスや慣習があるからだと言えるでしょう。また、ブレリアの即興性が高いのはテンポの速さにも関係しています。一般的にテンポが速いと細かい音や踊りのパツはできなくなり、テンポが遅ければその中にたくさんの音符を入れ込まなければなりません。つまりテンポが速いブレリアだからこそ、コンパスを大きく感じて即興的にノリや呼吸を楽しむことができるのです。

## ワンポイント→踊り・ギター

踊りでもギターでも、6拍以内の短い振りやフレーズを持っているとブレリアの即興に活用しやすいです。つまりゼロからの即興というわけではなくて、それらを即興的につなぎあわせていきます。即興性の強いブレリアを心底楽しんでください！

## ワンポイント→ギター

ブレリアの唄をギターで伴奏する際、いやおうなしに即興で音(和音)を探すことになります。同じくテンポの速いタンゴは1コンパス(8拍)の中で5拍目には和音を決めないといけませんが、ブレリアは10拍目まで猶予があるので、タンゴの伴奏に比べるとある意味時間的にラクだと言ってもいいでしょう。もし効果的な和音がすぐにとれなくても、唄の音程が定まるまでその前の和音を動かさないで弾くことがコツです。しっかりしたコンパス感を磨いてがんばってください。

セビージャの結婚式



## ブレリアの詩形

ブレリアは19世紀末にヘレスで生まれ、短期間のうちにアンダルシア全域に広がったと言われています。もともとソレアの終わり部分を速いテンポで歌ったのが切っ掛けで出来たこともあり、詩型はソレアと同じ8音節3行詩が主流を占めています。その他ブレリア・デ・カイに代表される8音節4行詩や詩型に関係なく流行歌などをブレリアのリズムで歌うこともあります。ソレア・デ・フアニキン(ソレア・デ・ヘレス)として有名な下記の歌詞は近年ブレリアで頻繁に歌われています。

Amargas son mis comías	味気ない私の食事
limones por la mañana	朝もレモン
limones al medio día.	昼もレモン

Perla de Cadiz(1924~75), Romerito de Jerez(1932~), Terremoto de Jerez(1934~81), Mariana Comejo(1947~2013)

1行目と3行目の終わりは「ía」と韻を踏んでいます。ブレリアはアレグリアスなどと違ってテンポも速くメディオコンパス(6拍)も多いので、唄のコンパス数は決められません。仮に1行を1コンパスで唄った場合は、何も繰り返さずにストレートに唄うと3コンパスになります。よくある唄い方としては、1行目を唄ったあとに1コンパス休んで、そのあとにまた1行目を唄い直し、その後2行目3行目を2回繰り返すというパターンです。つまり休みを入れると下記のように全部で7コンパスということになります。

- |                         |   |
|-------------------------|---|
| ①Amargas son mis comías | 1行目(Qué amargas~と唄う場合もあります)。  |
| ②1コンパス                  | ※唄い手が呼吸をして休んだり1行目のメロディーを伸ばしたり、又は踊り手がレマーテを入れたりすることによって、1コンパス空くことが多いです。 |
| ③Amargas son mis comías | ※1行目を唄い返す場合といきなり2行目に飛ぶ場合もあります。  |
| ④limones por la mañana  | 2行目(limoncitoと唄う場合もあります)。   |
| ⑤limones al medio día   | 3行目(pa'l medio díaと唄う場合もあります)。  |
| ⑥limones por la mañana  | ※この2行目3行目は繰り返さない場合もあります。  |
| ⑦limones al medio día.  |   |

## ブレリアのコンパス

「ブレリアのコンパスは12拍子で12拍目からはじまる」というような説明をよく耳にしますが、その考え方だと混乱してしまいます。リズム出しはあくまでも1拍目や1.5拍目からだと思える方が自然です(譜例1)。もしくは、はじまりの拍を探すのではなく、3拍目などアクセントのある拍を意識するとよりわかりやすくなります。また、各地方(ヘレス、セビージャ、レブリーハ、ウトレーラ、モロンなど)のノリやコンパスの特徴を感じると更に理解が深まり、より楽しむことができます。しかし最近のCDなどの録音は、レブリーハの唄い手のギター伴奏がヘレサーノ(ヘレスの人)だったり、カディスの唄い手のギター伴奏がトゥリアネーロ(セビージャのトゥリアーナ地区の人)だったりすることが多いので、混乱しないようにしてください。地域的特長を以下に説明していきますが、文章にすると間違った方向に進みがちなのと、私の個人的な解釈も多々あると思いますので、あくまでも自分の耳や感覚を信じるのが大切です。

### 譜例1

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
			>			>		>		>		>
パルマ	♪	♪	♪	♪	♪	♪	♪	♪	♪	♪	♪	♪
足			👠			👠		👠		👠		👠

### ヘレス・デ・ラ・フロンテーラ

3拍子と2拍子の混合アクセントをもつブレリアは、3と2の最小公倍数が6なので、6拍が最小単位のコンパスになります。そのメディオコンパス(6拍)のノリが強いのがヘレスと言っていいでしょう。ヘレスのブレリアは、まず自分たちが楽しむことが前提で、単純な2拍ずつのアクセントのとり方も特徴的です(譜例2)。比較的ゆっくりなテンポが多いので、裏拍を少し前に入れることによって、ハネた感じのノリになります(譜例3)。

### 譜例2

					>
パルマ	♪	♪	♪	♪	♪
足	👠	👠	👠	👠	👠

### 譜例3

		←		←	
パルマ	♪	♪	♪	♪	♪
足	👠	👠	👠	👠	👠

### セビージャ

観客の前で演ずる機会の多い、セビージャをはじめとする大都市部のブレリアは、テンポが速くしっかり12拍のリズムを打ち出していることが特徴です。その意味ではマドリードも同じだと言えます。テンポが速くなればリズムは問答無用にタイトになり、遅ければ裏拍の位置によって固有のノリが生まれてきます。

### レブリーハ、ウトレーラ

セビージャとヘレスの間に位置するレブリーハやウトレーラは、ロマンセのような比較的ゆったりしたリズム(コンパス)が多いように感じられます(譜例4)。ウトレーラで毎年夏に開かれるポタヘというフェスティバルで聴いたエル・レブリーハの唄は、泥臭さと創造性が同居したまさにムイフラメンコでした。

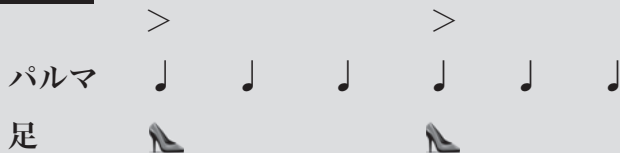
### 譜例4

パルマ	♪	♪	♪	♪	♪
足	👠				

### モロン・デ・ラ・フロンテーラ

モロンにもまた独自の特徴が感じられます。私が2000年夏に訪れたガスパチョ(フェスティバル)終了後、町の集会所で朝まで続いたブレリアはまさにハレオのリズムにも似た、頭にアクセントがある重厚感のあるノリでした(譜例5)。ディエゴ・デル・ガストールなどの得意としたギターのブルガール(親指)奏法が多用されると音楽的に一見古い感覚もしますが、それでいてモロンのフラメンコは洗練さも兼ね備えています。また、ブレリアのハケ(シメ)唄を全員で唄う場面も多く見受けられて、その場の皆で楽しく盛り上がりました。

#### 譜例5



### カディス

前述の地域のブレリアはミの旋法が基本の調性なのに対し、カディスのブレリアはメジャーキー(長調)のものが多いとされています。しかしアレグリアスのあとによく唄われるブレリア・デ・カイの旋律だけではなく、カディスのブレリアにはミの旋法のものもたくさんあります。それよりも、「イービービー」とか「ウーブブー」とか語尾の濁音を連発するカディスの唄い手の特徴がブレリアのノリにもつながっている気がします。

#### ワンポイント→踊り・ギター

コンパスとはメトロノームなどの均一なリズムのことではなく、ノリや空気感そのものです。唄のカイダ(メロディーの落ちる場所)や踊りの抜ける場所のあとに、またゆったりとしたリズムが戻ってきます。1コンパスの中にも個々のノリが存在し、複数のコンパスにまたがったノリやウネリも存在します。上記の譜例は、参考例にすぎません。各自いろいろ試してみてください。

実際にパルマを打つ際、手や足のリズムのほかに破裂音(「パ」とか「ピ」とか「ポ」など)を使ったハレオをリズムにのせてかけると更にノリが出てきます。ギターもコンパスを表現する手段として、音階を出さずにリズムだけのゴルベやタバオで演奏される場合も多いです。踊りでも実際足で音を鳴らさなくても、身体の動きや呼吸だけでコンパスを表現することもできます。つまり靴がなくても踊れるということです。ディエゴ・カラスコのようなコンパス感のすごいアルティスタのCDを聴くなどして、ブレリアのコンパスに慣れてください。

ソレアやシギリージャが表現者個人の内面の表現だとすると、ブレリアはその逆で、その場を皆で共有しながら楽しむものと言っていいのではないのでしょうか。それでいてセビジャーナスのようにある程度振りが決まっているわけではなく、それぞれの個性で自分だけの唯一の表現ができるのもブレリアの魅力です。

歌、ギター、踊りが相互に呼吸を合わせたり、ぶつかり合ったりと、その駆け引きに醍醐味があります。スタジオの中で踊りの自主練をするばかりだったり、自宅でギターを一人で練習するばかりでは唄との駆け引きを楽しむことはできません。今回はフィン・デ・フィエスタでのブレリアをいっそう楽しむためのコツを紹介する予定です。お楽しみに!!

**音源は片桐勝彦 HP で聴けます！ URL <http://www.toshima.ne.jp/~kata/katsu>**  
同内容のパルマクラス、スタジオロメロで開催中。12月2、16日、20:40～終電ぐらいまで